

令和元年度 本市の主要な文化芸術事業等について

本市を取り巻く文化芸術関連の動向について

① 文化庁の京都への全面的移転方針の決定

文化庁

▶平成29年4月 文化庁地域文化創生本部の創設

- ・旧市上下水道局東山営業所(東山安井)において、38名体制で業務開始。(現在:43名)
- ・府警本部本館に移転予定。
- ・移転に向けて、平成30年10月に大規模な組織改正を実施。

(文化庁の再編方針)

文化庁・文化財部を廃止し、東京と京都に次長を置く。
新設の文化資源活用課など5課を令和3年度までに京都に配置。
国会対応を担当する課などは東京に置く。

▶平成29年6月 文化芸術基本法の公布・施行

▶平成30年3月 文化芸術推進基本計画の策定

▶平成30年9月 文化庁50周年記念式典(台風により中止)

▶令和元年10月～11月 移転シミュレーションを実施

職員の約1割が交代で、国会対応や他省庁との調整などの業務に当たる、初めての、本格的な移転シミュレーション。



平成29年4月地域文化創生本部 創設

(P. 3)

(P. 4)

京都市

▶平成29年4月 「文化首都・京都」推進本部の設置

▶新・文化庁の機能強化との連携事業を新たに実施

▶平成30年9月 文化庁50周年記念式典にあわせ、記念パレードの開催、文化庁50周年を記念する旗の掲出

本市を取り巻く文化芸術関連の動向について

② 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催

▶**京都文化カプロジェクト2016-2020【京都市・京都府・京都商工会議所】** (P. 5)

- ・今年度は「くらしの文化」をリーディング事業として展開(平成29年度「舞台芸術」, 平成30年度「美術・工芸」)
- ・「京都・くらしの文化×知恵産業展(令和元年9月)」をはじめ, 茶道やいけばなの体験型イベント等を開催。また, 2020年の総合的な祭典の開催に向けた準備を行っている。

③ 文化芸術立国を牽引する京都市独自のリーディング事業

新たな経済的価値の創出

- ・世界遺産・二条城の保存・活用推進 (P. 6)
- ・KYOTO STEAM—世界文化交流祭— (P. 7)
- ・artKYOTO2019(国際的なアートフェア) (P. 8)
- ・京都文学賞 (P. 9)
- ・映画顕彰制度の検討 (P. 9)

地域共生社会の実現

- ・子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出 (P. 10, 11)
- ・祇園祭創始1150年記念事業 (P. 12)
- ・まち・ひと・こころが織り成す京都遺産制度 (P. 13)
- ・京都を彩る建物や庭園制度 (P. 14)
- ・京都をつなぐ無形文化遺産制度 (P. 14)

都市間文化交流の更なる発展

- ・国際博物館会議(ICOM)京都大会 (P. 15)
- ・東アジア文化都市交流事業 (P. 16)
- ・日本・ポーランド国交樹立100周年記念事業 (P. 16)

重要文化プロジェクト

- ・京都駅東南部エリア活性化方針の推進 (P. 17)
- ・京都市立芸術大学の移転整備 (P. 18)
- ・新たな「京都市動物園構想」の策定 (P. 18)
- ・京都市京セラ美術館再整備 (P. 19)
- ・京都市交響楽団の運営強化 (P. 20)

① 文化庁の京都への全面的移転方針の決定

「文化首都・京都」推進本部の設置

文化庁の京都への全面的移転を見据え、「文化を基軸とした市政運営」を展開するため、3つの方針を策定し、全庁を挙げて重点的に取り組んでいる。

新たな経済的価値の創出

地域共生社会の実現

都市間文化交流の更なる発展

設置目的・趣旨

文化による社会の活性化や地方創生，国際交流への貢献を目指し，文化を基軸とした施策の融合及び文化政策の更なる推進

29年
4月26日
設置

構成員

＜本部長＞ 門川市長
＜副本部長＞ 岡田副市長，村上副市長，鈴木副市長
＜本部員＞ すべての局，区等の長及び関連施策を所管する局長級職員

部会の設置

推進本部の下部組織として，文化，観光，経済の融合・連携を中心とした方策等について，実務的な検討を進めるため，文化芸術政策監を部会長とし，関係局区の部長級職員等で構成する2つの「部会」を設置。

【2つの部会，各主題】

第1部会 「文化・観光・経済の融合」

第2部会 「文化芸術を活かしたまちづくり」

新・文化庁の機能強化との連携事業

新・文化庁の機能強化の方針を踏まえ、連携を図りながら、京都が「文化芸術資源を活用した地方創生のモデル」となり、文化芸術都市・京都の都市格をより一層高めることを目指します。

芸術家のグローバルアート市場への進出支援

京都で活動する芸術家の社会的・経済的地位向上に向け、市場規模の大きい海外のアートフェアに作品を出展し、グローバルアート市場で活躍できる芸術家の育成や海外進出に係る支援を実施。



【～令和元年12月25日】

事業資金の獲得のため、ふるさと納税型クラウドファンディングを実施中(目標金額:500万円)

【令和2年1月(予定)】

台北當代(ダンダイ)アートフェアに出展予定

経済



生活文化

文化芸術

産業／学術



福祉

暮らしの文化はぐくみ事業

京都の暮らしの中で生まれ、根付いてきた暮らしの文化(生活文化)を次世代へ継承するため、文化(「京の食文化」「京・花街の文化」「京の地蔵盆」「京のきもの文化」「京の菓子文化」「京の年中行事」)を子どもたちが体験できる普及啓発事業等を実施。



文化芸術による 共生社会実現に向けた基盤づくり事業

文化芸術による社会的課題、困難の緩和に向け、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談窓口の設置、運営など、文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくりに本格的に取り組む。



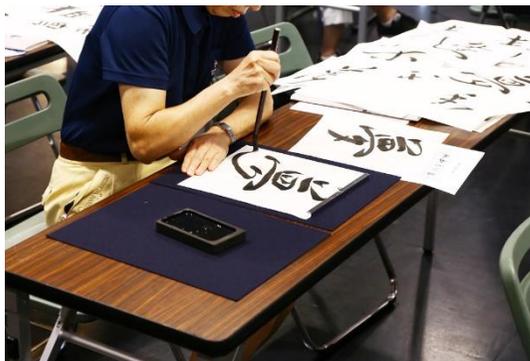
② 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催

京都文化カプロジェクト2016-2020

「京都文化カプロジェクト」は、東京2020オリンピック・パラリンピック等に向けて、京都から多彩な文化・芸術を世界に発信するオール京都による祭典です。

■事業計画

平成29年度から令和元年度まで、
「舞台芸術」「美術・工芸」「くらしの文化」
の3分野について、年度ごとに1分野でリー
ディング事業を実施し、令和2年度はあらゆる
分野の総合的な祭典を計画しています。



令和元年9月3日～5日
令和元年度のリーディング事業
「京都・くらしの文化×知恵産業展」
ICOM京都大会の開催期間に合わせ、
京都市勧業館みやこめっせにて体験
型イベントやステージイベントを開催

■令和元年度事業

- ・リーディング事業（くらしの文化）
「京都・くらしの文化×知恵産業展」の開催、
「京都・くらしの文化まつり」の開催、お稽古
教室の情報発信、国際交流茶会の開催等
- ・推進フォーラムの開催、イベントガイド（季刊）
の発行、機関誌の発行、ポータルサイトの運営、
beyond2020プログラム認証等



③ 文化芸術立国を牽引する京都市独自のリーディング事業

世界遺産・二条城の保存・活用推進

世界遺産であり、京都を代表する文化観光施設である二条城。世界中から迎える来城者にその価値を正しく伝えるため、8言語でパンフレットを作成するなど、案内の充実を図っています。

また、MICEのユニークベニューとして活用する取組も進め、その収益を築城以来の本格修理工事(平成23年度～約20年間、総事業費:100億円超の規模)の財源に充て、文化と経済の好循環を生み出すなど、保存と活用のモデルとなることを目指しています。

(取組の成果)

入場者数 平成30年度, 215万人を記録

収益 平成24年度決算, 約9億円 → 平成29年度, 約14億円

(主な活用事例)

平成29年	8月19日～10月15日	東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」
	10月13日, 10月15日	東アジア文化都市2017京都「伝統芸能公演」
	10月	大政奉還150周年記念 幕末サミット
	10～12月	アートアクアリウム城
平成30年	3月24日	京都学生アートオークション
	5月23日～24日	本因坊戦
令和元年	5月18日, 5月19日	二条城茶会
	8月～	文化庁「Living History(生きた歴史体感プログラム)促進事業」
	8月31日～9月3日	展覧会「時を超える:美の基準」
	9月6日～9月9日	artKYOTO2019
	9月21日～10月6日	「京都詩情」写真家 甲斐扶佐義 初回顧展 等



アートアクアリウム城



8言語対応 二条城の紹介パンフレット

KYOTO STEAM —世界文化交流祭—

平成29年度から、文化庁補助事業を活用し、芸・産学官連携による、文化芸術都市・京都の持続的な発展を目指し、取組を進めています。本事業では「アート×サイエンス・テクノロジー」をテーマとし、京都の文化資源を活かして文化芸術の新たな可能性・価値を問う新しい形態のフェスティバルをオリンピックイヤーである令和2年春に開催し、人材育成や国際交流・ネットワーク構築・情報発信にも取り組めます。

※STEAMとは…Science(科学), Technology(技術), Engineering(工学), Art(芸術), Mathematics(数学)



主な取組

日時	会場	取組
平成31年 3月21日(木)～25日(月)	ロームシアター京都, 京都市動物園ほか	KYOTO STEAM—世界文化交流祭—prologue (国際アートコンペティション プレビュー トークセッション ほか AR技術を活用した能楽公演)
3月30日(土)～31日(日)	二条城御台所	
令和2年 3月9日(月), 21日(土) 22日(日), 24日(火)	ロームシアター京都, 京都市京セラ美術館, 京都市動物園ほか	KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020 (国際アートコンペティション スタートアップ展 アートカルティベートフォーラム ダムタイプ新作パフォーマンス2020(仮)等)

artKYOTO2019(国際的なアートフェア)

世界遺産・二条城を舞台とする国際的なアートフェアを初開催。京都から世界のアートシーンを牽引するべく、古美術から現代美術まで、国内外から31のギャラリー・美術商がそれぞれの審美眼に基づいたアート作品の展示及び販売を行いました。歴史的建造物を舞台に、アート作品の鑑賞から所有まで、様々な体験を創出しました。

artKYOTO 



■開催概要

日程: 令和元年9月6日～9月9日 ※6日は関係者のみの特別内覧会

会場: 元離宮二条城 二の丸御殿台所・御清所／東南隅櫓

主催: artKYOTO 実行委員会

(京都市, 一般社団法人 アート東京, 株式会社電通, 株式会社電通ライブ)

■実績

来場者数: 9, 633人(4日間合計)

売上高: 2. 5億円

出展ギャラリー: 31軒(国内28軒, 海外3軒)

出品点数: 約400点

京都文学賞

昨年の「世界文化自由都市宣言」40周年を契機に、京都における文学の更なる振興とともに「文化都市・京都」の発信や、京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上に寄与するため、今年度「京都文学賞」を創設しました。「京都」を題材とする小説を「一般部門」「中高生部門」「海外部門」の3部門で、全国から作品を公募し、新人作家の発掘、育成を目指しています。

京都文学賞

Kyoto Literature Award



イラスト：岡本秀 ロゴ：高山燦

作品〈京都を題材とする未発表「小説」〉

「一般部門」「中高生部門」「海外部門」の3部門

〈一般部門〉28,000字以上160,000字以内 〈中高生部門・海外部門〉8,000字以上60,000字以内
応募方法／HP等で募集要項を確認のうえ応募フォーム又は郵送で提出
発表／2020年2月頃 表彰式・交流会／2020年3月頃

応募締切 2019年9/30(月)

一般部門 最優秀賞
賞金100万円
出版化

読者選考委員〈作品の選考に加わる方を一般公募〉

選考時期／二次選考：2019年11月下旬～12月頃、最終選考：2020年1～2月頃
選考作品数／二次選考：1人当たり10～15点程度、最終選考：各部門から数点
募集人員／40名程度 ※二次選考は全員、最終選考は一部の方のみ参画いただきます。
謝礼／選考作品40,000字までにつき図書カード500円分
応募方法／HP等で募集要項を確認のうえ郵送で提出 結果通知／2019年10月上旬頃

応募締切 2019年7/31(水)

■今後のスケジュール(予定)

令和元年11月下旬 一次選考結果発表
令和2年1月上旬 二次選考結果発表
令和2年3月下旬 受賞作の発表 表彰式・交流会

応募件数：537件

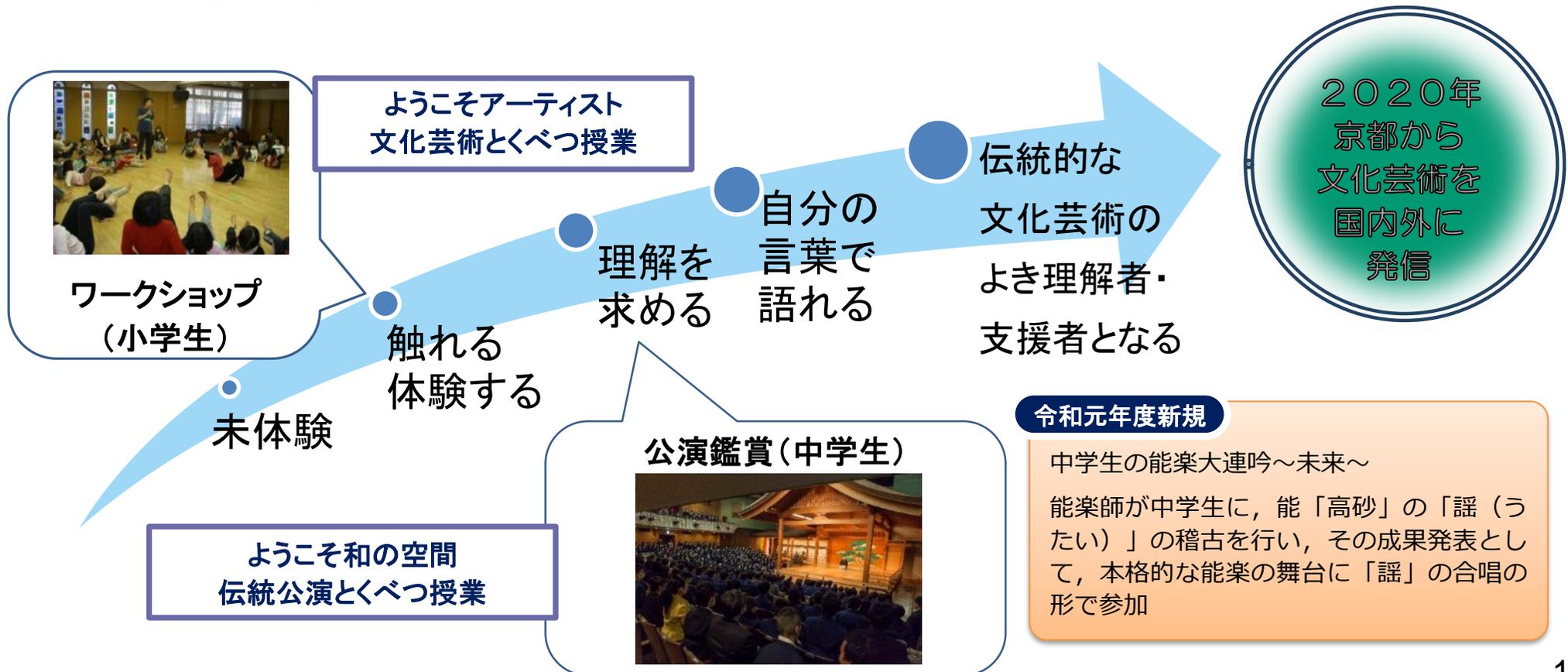
映画顕彰制度の検討

映画製作に必要な様々な資源が集積している京都で、その財産を未来に継承し、映画文化の更なる振興を図るとともに、持続可能な担い手の育成や国際文化観光都市としての魅力発信にも寄与するため、京都での更なる映画製作につながるような新たな顕彰制度の創設を検討しています。

子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、より多くの子どもたちが優れた文化芸術に触れる機会を設けることにより、豊かな感性や人間性を育むとともに、伝統的な文化芸術をはじめとする京都の文化芸術を自分の言葉で国内外の方に伝え、発信できる青年層を育成することを目指しています。

一流の芸術家を小・中学校等に派遣し、ワークショップ等を実施する「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」と、中学生を対象に能楽堂等本格的な文化芸術の舞台上で伝統芸能公演を鑑賞する「ようこそ和の空間伝統公演とくべつ授業」を一体的な取組として実施し、子どもたちが伝統的な文化芸術に触れる機会を創出してきた取組をさらに強力に推進します。



参考：子どもを対象とした文化芸術に関する施策一覧

生活文化分野	伝統文化分野	伝統産業分野	劇場芸術分野	文化財分野
<p>○能楽, 日本舞踊, 邦楽等の伝統芸能をはじめ, 茶道, 華道, 書道や演劇, ダンスなどの一流のアーティストを学校等に講師として派遣し, 実技指導やワークショップを行う。(幼, 保, 小, 中)</p>				<p>○葵祭見学(幼)</p> <p>○時代祭見学(小)</p> <p>○ジュニア京都検定</p> <p>○「京都・観光文化検定試験3級」チャレンジ</p>
<p>○茶道, 華道・いけばなの伝統文化体験(小, 中)</p> <p>○茶道を中心としたおもてなしの心を身に付ける伝統文化体験(高)</p> <p>○土日等休業日における地域ボランティアを講師とした茶道, 華道体験</p> <p>○学校給食に和食の献立を充実</p>	<p>○能, 狂言, 邦舞, 邦楽の伝統芸能公演鑑賞(中)</p> <p>○能楽鑑賞会(高)</p> <p>○放課後や長期休業期間における古典・伝統文化体験(小, 中)</p> <p>○和装の着装指導や, 邦舞, 和楽器, 伝統産業の専門家の講師派遣と体験教室(小, 中)</p>	<p>○西陣織, 京鹿の子紋, 京友禅・京小紋, 京くみひもなどの伝統産業製作体験(小, 中)</p>	<p>○親子音楽鑑賞会(幼)</p> <p>○演劇鑑賞教室(小)</p> <p>○小学生のための音楽鑑賞教室(小)</p> <p>○文化芸術団体による実演芸術の巡回公演, 学校での文化芸術鑑賞・体験</p>	<p>*赤字は, 全校(園)対象事業(予定含む。)</p>

祇園祭創始1150年記念事業

祇園祭は、八坂神社社伝によると、貞観11年(869年)、国内各地で発生した天変地異や疫病の流行を受け、全国の平安を祈るため、当時の国の数である66本の鉾を立て、神輿が神泉苑へ送られた御霊会が起源とされており、2019年に1150年を迎えます。

また、ユネスコ無形文化遺産登録から10年、国の重要無形民俗文化財指定から40年の節目の年を迎えます。この記念すべき節目の年に、シンポジウムや写真展、レクチャーシリーズなど、様々な事業を実施します。



■ 主な取組(予定含む)

5月12日～12月14日

こんちきジーズ～祇園祭から学ぶ持続可能性。SDGsの先へ～

6月8日

記念事業「京都の鉾差し」講演と実演

6月29日

祇園祭記念フェスタ

7月1日～7月31日

市民公募写真展

8月31日～11月8日

レクチャーシリーズ「祇園祭 温故知新」(全4回)

- ・祇園祭 戦後のあゆみとこれから
- ・祇園祭を支える人々：山鉾町と神輿会
- ・動く美術館「山鉾」の装飾品の修理と継承：新調修理事業の現場から
- ・祇園囃子の背景：太鼓、鉦、笛の調和

12月15日

記念事業「講演と実演」等



まち・ひと・こころが織り成す京都遺産制度

京都市には、約三千の国宝、重要文化財、市指定登録文化財をはじめ、多くの貴重な有形・無形の文化遺産があります。

こうした京都の文化遺産をテーマ毎にまとめ、地域性、歴史性、物語性を持った集合体として認定する「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産(略称:「京都遺産」)」制度を創設し、現在、以下のテーマを認定しています。

平成30年度

いまでも息づく平安王朝の雅

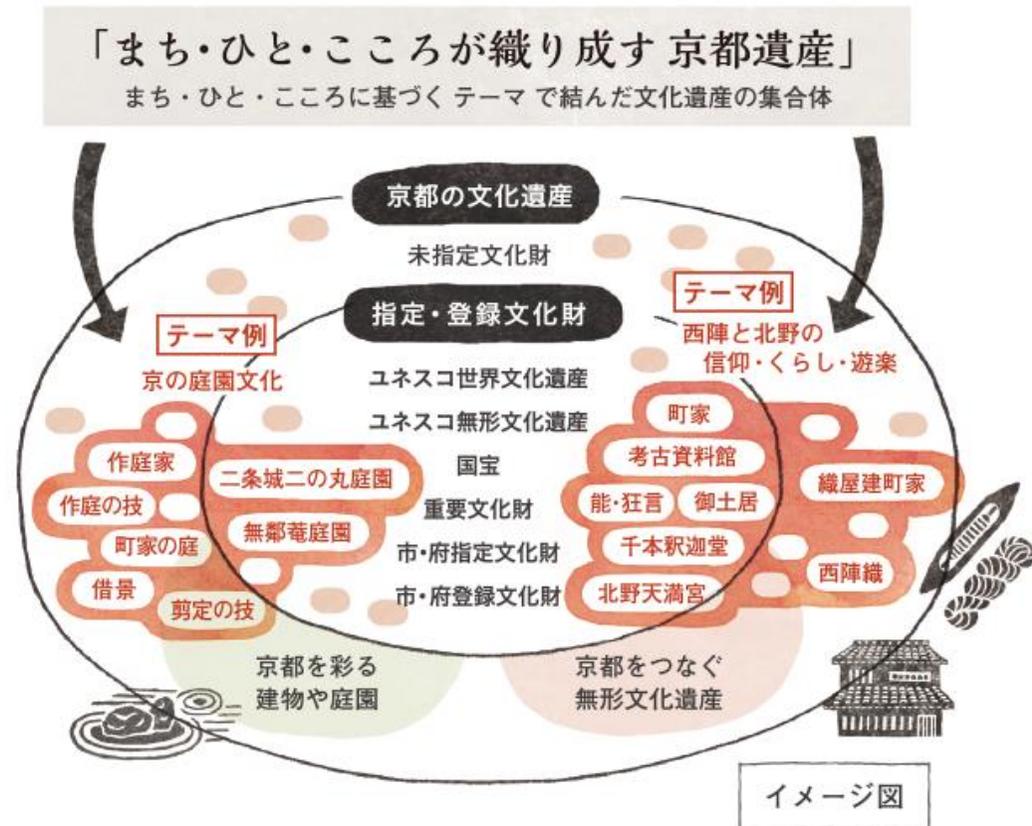
千年の都を育む山と緑

平成29年度

明治の近代化への歩み

千年の都の水の文化

京町家とその暮らしの文化



京都を彩る建物や庭園制度

京都市内には、京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園が、所有者のたゆまぬ努力により、世代を越えて継承されています。しかし、中には、その存在と魅力が十分に伝わっていないものや、維持・継承が危ぶまれているものもあります。そこで、京都の財産として残したい建物や庭園を募集し、“京都を彩る建物や庭園”としてリスト化することとしました。

この制度は、これらの建物や庭園を、市民ぐるみで残そうという気運を高め、様々な活用を進めることなどにより、維持・継承を図ろうというものです。

（“京都を彩る建物や庭園”の「認定」及び「選定」について（令和元年7月末時点））

- ・ “京都を彩る建物や庭園” の「選定」…累計142件
- ・ “京都を彩る建物や庭園” の「認定」…累計438件 ※うち公表に同意を得たもの411件

京都をつなぐ無形文化遺産制度



世代を越えて暮らしの中で受け継がれてきた無形文化遺産の価値を再発見・再認識し、内外に魅力を発信するとともに、大切に引き継いでいこうという市民的気運を盛り上げるため、“京都をつなぐ無形文化遺産”制度を創設し、これまで、以下を選定しました。

- ・京の食文化
- ・京の地蔵盆
- ・京の菓子文化
- ・京・花街の文化
- ・京のきもの文化
- ・京の年中行事

国際博物館会議 (ICOM) 京都大会

令和元年9月1日～7日、「文化をつなぐミュージアムー伝統を未来へー」をテーマに、日本で初めて、国際博物館会議が京都で開催。世界約120の国と地域から、博物館の専門家ら4,590人が参加しました。会期中は基調講演、パネルディスカッションなど全体会議の他に、岡崎地域などでソーシャル・イベントを開催。世界遺産・二条城では、一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパンと連携し、日本の現代美術シーンを牽引する作家たちの展覧会を実施。レセプションでは、いけばなのパフォーマンスや和食の提供など、日本文化に触れていただきました。その他、行政、博物館や文化施設等の協力のもと、様々な市民向けのイベントを開催しました。



会場風景(国立京都国際会館)



「時を超える: 美の基準」展(二条城)

■主な関連イベント

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 5月26日 | 国際博物館の日記念シンポジウム |
| 7月13日～9月16日 | ミュージアム・プレミアムイベント |
| 8月31日～9月3日 | 「時を超える: 美の基準」展 |
| 9月1日～9月8日 | CONTACT・つなぐ・むすぶ 日本と世界のアート展 |
| 9月3日～9月5日 | 京都・くらしの文化×知恵産業展 |
| 9月6日～9月9日 | artKYOTO2019 |
| 9月中 | 関西文化の日プラスの特別実施 等 |



いけばなのパフォーマンス(二条城)

東アジア文化都市交流事業

京都市は2017年、文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」の開催都市に、中国・長沙市、韓国・大邱広域市とともに選ばれ、開催都市との青少年や若手アーティストによる交流事業や、東アジアをテーマに、伝統的な文化芸術、現代美術、音楽、マンガ・アニメなど、多彩なイベントを開催しました。今後も引き続き、長沙市、大邱広域市とともに青少年交流と文化芸術団体の相互交流を行います。

■令和元年度■

青少年文化交流プログラムの実施

芸術系大学の学生などの青少年を相互に派遣し、現地の学生や芸術家等を交えた文化交流プログラムを実施する。

■令和元年度■

中韓文化芸術団体の相互交流

京都市、大邱広域市で開催される文化イベント等に文化芸術団体等を相互に派遣する。京都市での交流については、京都市平和祈念事業の一環として、事業を実施する。



今年度の青少年文化交流の様子(京都市開催)

日本・ポーランド国交樹立100周年記念事業

日本・ポーランド国交樹立100周年を記念し、アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート及び京都芸術センター等との共催により、ポーランド芸術祭2019 in Japan「セレブレーションー日本ポーランド現代美術展ー」を開催。京都芸術センターやロームシアター京都等での展示やパフォーマンス、世界遺産・二条城での特別展示などを実施しました。



■開催期間 令和元年5月18日(土)～6月23日(日)

京都駅東南部エリア活性化方針の推進

平成29年3月に策定した「京都駅東南部エリア活性化方針」に基づき、「文化芸術」と「若者」を基軸とした新たなまちづくりをすすめています。平成29年度から、新たなまちづくりに向けた機運の醸成を図るためのワークショップやイベントを実施しています。また、文化芸術を活用し、社会的課題や困難の緩和につなげ、共生社会を実現するための取組として、多文化共生をテーマとしたモデル事業などを実施しています。

■主な取組(予定含む)

- 平成29年度 京都駅東南部エリア アート・トライアル 2017-2018 (多文化共生ネットワークサロン他)
公演「はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？」(故郷の家・京都)
- 平成30年度 ひかりの広場(北河原市営住宅跡地)
ノガミッツ プロジェクト(東九条のぞみの園 他)
- 令和元年度 東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす(北河原市営住宅跡地他)
東九条こどもご近所映画祭(THEATRE E9 KYOTO 他)



ひかりの広場



京都駅東南部エリア アート・トライアル



はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？

京都市立芸術大学の移転整備

京都芸大のこれまでの永年の取組を継承しながらも、世界に冠たる芸術大学として一層飛躍するため、京都の玄関口であるJR京都駅東部エリアへキャンパスの移転整備を行います。同エリアに、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するとともに、京都全体の文化芸術によるまちづくりを一層推進します。令和5年度の移転を目指し、実施設計に着手するとともに、移転整備プレ事業を実施しています。



新たな「京都市動物園構想」の策定

今年度、現構想である「共汗でつくる新「京都市動物園構想」」が策定後10年の節目を迎えるに当たり、多様化する環境教育のニーズに対応するとともに、全国の動物園の中で希少動物の繁殖や研究・教育において、主導的な役割を果たしていくため、ソフト面を中心とした方針を市民の皆様等にお示しするものです。



市民の寄付金と市費によって明治36年に開園した全国で2番目の歴史ある動物園。平成20年には、京都大学との間で締結した協定により、全国で初めて大学教員が常駐する動物園となりました。

平成26年には、ラオスから子ゾウが4頭到着したほか、ニシゴリラ、グレビーシマウマなど、約120種550点の希少な動物を飼育しています。

京都市京セラ美術館 再整備

開館80周年の節目を迎えた平成25年度、建物や設備の著しい老朽化をはじめとした様々な課題を克服するとともに、50年後、100年後を見据えた将来像を明らかにするため、「京都市美術館将来構想」を策定しました。また、「将来構想」を具体化するべく、平成27年3月には、「京都市美術館再整備基本計画」を策定し、平成28年3月には、基本設計が完了しました。

平成29年2月には、京セラ株式会社と50億円(50年間)のネーミングライツに関する契約を締結しました。「京都市京セラ美術館」として、令和2年3月21日のリニューアルオープンに向けて工事を進めています。

■整備のコンセプト

- (1) 文化芸術都市・京都の新たなシンボルとなる美術館
- (2) 日本を代表する複合型美術館
- (3) 日本有数の集客力がある美術館

■リニューアルオープン後の特徴

- (1) 現代アート展示室「東山キューブ」が誕生
- (2) 常設コレクション展示室(コレクションルーム)を新設
- (3) カフェ, ミュージアムショップ, 広場, 庭園などオープンスペース
- (4) ユニークヴェニューとして交流の場に



京都市交響楽団の運営強化

京都市交響楽団は、昭和31年4月に日本で初の自治体オーケストラとして発足し「市民に愛され、世界に誇れるオーケストラ」を目指して、半世紀超にわたり多彩な事業を実施してきました。平成26年には、サントリー音楽賞を受賞するなど、その高い演奏力は国内外から高い評価を得ています。

こうした中、令和2年4月、地方公務員法及び地方自治法の改正（令和2年4月施行）に伴い、楽団員が、京都市の特別職非常勤嘱託員から、（公財）京都市音楽芸術文化振興財団の職員となります。

これに伴い、今後も京都市が楽団の設置に責任を持ち、京都市交響楽団を支援することを目的として、昨年度、京都市交響楽団条例を制定（令和2年4月施行）し、今年度は、京都市交響楽団の更なる発展を目指すための京都市交響楽団ビジョン（仮称）を策定します。

■今後のスケジュール(予定)

令和元年11月	第4回京都市交響楽団ビジョン(仮称)検討会議
令和元年12月	京都市交響楽団ビジョン策定
令和2年4月～	新体制での運営開始

